

関西学院大学 研究成果報告

2025年 10月 27日

関西学院大学 学長殿

所属：法学部
職名：准教授
氏名：野上陽子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☐ 特別研究期間 ☒ 自由研究期間 ☐ 大学共同研究 ☐ 個人特別研究費 ☐ 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	日本の大学教育におけるELFアプローチの実践とリソース開発
研究実施場所	自宅
研究期間	2025年 4月 1日 ～ 2025年 9月 21日（6ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本研究「日本の大学教育におけるELFアプローチの実践とリソース開発」は、英語を国際共通語（English as a Lingua Franca: ELF）として捉え、母語話者規範に依存しない、多様性と相互理解を重視した英語教育を日本の大学教育にいかに統合できるかを探ることを目的として実施したものである。ELFアプローチは、従来の「正しい英語」や「母語話者のような英語」を目標とする教育観から離れ、異なる言語・文化的背景をもつ話者同士が、いかに相互理解を図り、柔軟にコミュニケーションを行うかに焦点を当てる。そのため本研究では、ELFの理念を教育実践に反映させるための具体的な教育リソース、教材、および指導ガイドラインを整備することを主要課題とした。

研究の背景として、日本の大学英語教育では長らく「ネイティブ・スピーカー像」を理想とする教授法が主流であり、学習者が多様な英語使用環境に柔軟に対応するための教育は十分に行われてこなかったという課題がある。近年、国際的な学術交流やビジネスの場において、英語を母語としない話者同士が英語で意思疎通を図る事例が急増しており、こうした現実を反映した教育の必要性が高まっている。ELFの理念は、まさにこのような「多様性の中での通じ合い」を重視する新しい英語教育の方向性を示すものである。

本研究の主要な取り組みとして、まずELFの理論的枠組みを理解し、教育現場で実践可能な形に落とし込むためのリソース開発を目的に、代表的なELF関連学術書の翻訳・監修を行った。具体的には、Jennifer Jenkins と Sonia Morán Panero による *Global Englishes: A Resource Book for Students* (Routledge, 2025) の邦訳版『グローバルな英語たち — Global Englishes』（関西学院大学出版会、2026年3月刊行予定）の翻訳・監修に携わった。本書は、ELFおよびWorld Englishesの概念を体系的に整理し、応用言語学や社会言語学の基礎をELFの視点から学ぶことができる学生向けテキストであり、日本語で利用可能な包括的リソースとして極めて意義深いものである。

研究の実施過程としては、2025年2月に出版会との打ち合わせを行い、翻訳スケジュールおよび執筆工程を確認した。続く3月には、共同翻訳者5名とZoom会議を実施し、翻訳方針、表記基準、用語の統一に関する意見交換を行った。4月以降、各翻訳者が担当章の邦訳を進め、5月から7月にかけてペアによる相互校閲と用語・文体のすり合わせを実施した。代表者である本研究者は、担当章の翻訳および全体監修を行うとともに、まえがき・索引・目次の邦訳および「訳者まえがき」の執筆も担当した。8月には全訳稿を全員で精読・推敲し、9月に本研究者が最終確認を行った上で、同月末に最終稿を出版会へ提出した。これら一連の工程を自由研究期間中に計画通り遂行し、出版準備を完了することができた。

本翻訳・監修作業を通じて得られた成果として、第1に、ELF理論を日本語で学習できる包括的教材を整備できた点が挙げられる。単なる翻訳にとどまらず、日本の大学生、特に言語専攻・教育専攻以外の学生にも理解しやすいよう、専門用語の解説を補足し、平易かつ明快な表現を心がけた。この点において、当初の想定を超える教育的効果をもつ成果を得ることができたと考える。これにより、学生が、英語の多様性や社会言語学的背景を理解し、グローバルな英語使用に対する認識を深めることが可能となった。

第2に、ELFアプローチを言語教育実践へと展開するためのガイドライン作成に向けた基礎を築くことができた点である。翻訳作業の過程で得られた知見をもとに、今後は大学英語教育におけるELF的指導法の導入を目指し、授業設計モデルや学習教材の開発に発展させたい。

一方で、本研究を通じて明らかになった課題もある。すなわち、学習者の英語力や学術的背景の差により、英語原著による学習が困難である現実、そしてELFの理念を具体的な教育実践にどのように落とし込むかという問題である。これらの課題に対処するため、今後は本邦訳書を用いた授業実践および学習者調査などを通じて、ELFアプローチの有効性や教育効果を実証的に検討していく必要があるだろう。

総じて、本研究はELF教育の実践化に向けた重要な第一歩として、理論的・実践的双方の基盤を整備することができたと言える。ELFを基軸とする英語教育は、単なる言語能力の向上にとどまらず、異文化理解力、批判的思考力、そして国際社会における共生的コミュニケーション能力の育成を目指すものである。今回の邦訳・監修作業を通じて、国内の教育現場においてELFの理念に基づく教育実践を推進するためのリソースが整備されたことは、日本の英語教育における国際化と多様化を支える重要な成果であると考えている。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。